

三工PTAだより

香川県立三豊工業
高等学校
PTA発行



行動する勇氣

PTA会長
松原 三千代

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。3年間、三豊工業高校で学んだこと、経験したこと、自信と誇りをもって、自ら選んだ職場や学校で活躍されることを願っています。18年間支えてくれた家族、根気よく指導いただいた先生方、地域の皆さんに応援され、助けられて今があることを忘れてないでください。

何かを達成しようとした時、失敗を恐れない「行動する勇氣」が大切なのだそうです。数々の発明で知られるエジソンですが、偉大な功績の陰にあった数々の失敗の陰に「私は失敗などしていません。1万通りのうまくいかない方法を見つけただけだ。」という言葉を残しています。失敗を恥として隠すのではなく、まず素直に認め、

その原因をしっかりと考えて、成功に結びつけていく姿勢を大切にしたいと思えます。何ごとも一生懸命に、念ずるように、努力すれば、必ずから道は開ける。行動する勇氣を持つ知人が教えてくれた詩人坂村真民さんの詩です。

念ずれば 花開く
念ずれば 花ひらく 苦しいとき 母がいつも口にしていた このことばを わたしもいつのころからか となえるようになった そうしてそのたび わたしの心がふしぎとひとつひとつ ひらいていった

さて、PTA会員の皆様には、日頃よりPTA活動にご協力をいただき、ありがとうございます。活動を通じて皆さんと出会い、話し合うことができました。持久歩大会、PTAバザーでは大変お世話になりました。一緒に和気あいあいと活動できたことは、今後のPTA活動の充実につながり、まず素直に認め、

「いい言葉は人生を変える」の中に良いなと思った詩があったので紹介します。よく笑う人は よく泣いた人。よく「大丈夫」と言う人はよく無理をする人。よく強がる人はよく我慢をする人。幸せな人は辛さを知っているから優しくなる。強くなる。本音がそうだなと思いました。嫌なことがあったら泣きましょう。辛いことがあったら泣きましょう。悔しくても、悲しくても泣きましょう。そうして、たくさん笑ってください。たくさん笑っていられるように、我慢しないでください。これからはあなたの笑顔がたくさん見られることを楽しみにしています。



三工PTAだより 最終号に寄せて

校長 高橋 輝章

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今日の佳き日を迎えられることは、卒業生一人ひとりの日々の努力と在学中しっかりとお子様を支えていただいたご家族の支援があったからであり、心からお祝いとお礼を申し上げます。さて、今年度のPTA活動を振り返りますと、8月の「親と教師の語り合う旅」(PTA研修旅行)では徳島県鳴門市の大塚国際美術館、大鳴門橋遊歩道「渦の道」、大鳴門橋記念館「エディ」を訪れました。また、9月下旬の持久歩大会、10月の三豊工業祭では、多くの皆様からご支援いただきました。昨秋に完成した工業科棟のホームルーム教室を中心とした空調設備の設置についても、皆様のご理解をいただき、観音寺総合高等学校の開校前に完成す

ることができました。ありがとうございました。三工PTAだより創刊号は創立15周年を迎えた昭和51年7月16日に発行されました。当時の出渕信明校長は、「創刊を祝して」と題した寄稿で

「われわれの社会は世界にかなってない飛躍を求めた。しかしそれは経済的発展とともに精神的変貌をもたらしたことも事実である。子どもたちの人間の成長にこのPTAだよりが資すれば幸いです。」と結んでいます。「精神的変貌」と「人間の成長」、41年前のこの指摘は、時代を問わず求められる課題だと思えます。生徒達には、生涯を通して「学び続ける姿勢」や「心の成長」を大切に、地域社会の担い手として活躍してほしいと願っています。

卒業生の保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今日の佳き日を迎えられることは、卒業生一人ひとりの日々の努力と在学中しっかりとお子様を支えていただいたご家族の支援があったからであり、心からお祝いとお礼を申し上げます。さて、今年度のPTA活動を振り返りますと、8月の「親と教師の語り合う旅」(PTA研修旅行)では徳島県鳴門市の大塚国際美術館、大鳴門橋遊歩道「渦の道」、大鳴門橋記念館「エディ」を訪れました。また、9月下旬の持久歩大会、10月の三豊工業祭では、多くの皆様からご支援いただきました。昨秋に完成した工業科棟のホームルーム教室を中心とした空調設備の設置についても、皆様のご理解をいただき、観音寺総合高等学校の開校前に完成す



西側から正門方向を望む
左(奥本館、手前 実習棟)、右(工業科棟)



完成した工業科棟(東側から)



機械科実習室の空調設備



ホームルーム教室の空調設備

本校の開校と観音寺総合高等学校の開校に向けての今後のスケジュールは、下のようになります。

- 卒業するあなたがへ
- ・3月中旬まで 工作機器の移設
 - ・3月17日(金) 卒業式、閉校式
 - ・3月22日(水) 机・椅子等の移設
 - ・3月28日(火) 1、2年生登校日
 - ・3月31日(金) (閉校記念除幕式・離任式・年度当初の連絡)
 - ・4月1日(土) 閉校
 - ・4月6日(木) 観音寺総合高等学校開校
 - ・4月7日(金) 始業式
 - ・4月10日(月) 入学式
 - ・4月10日(月) 開校式
- 参考
- 校章デザイン 大谷リユウジさん
 - (※イラストレーター)
 - 校歌作詞・作曲 生駒龍之介さん
 - (※音楽プロデューサー)
 - ※「観音寺市ふるさと応援大使」

卒業する我が子へ贈る言葉

卒業するあなたがへ

卒業おめでとうございます。あつという間の3年間でした。通学時間も長くなり、勉強や部活動など、あれこれと心配な日々でした。新しい友人もできて学校生活に慣れてきていくことがわかっていても、親の知らないことがたくさんあるような気がして・・・。

ながら高校生活を始めた日がついにこの間のような気がします。高校生活ではストレスを感じることも多かったよう、イライラしたり、体調を崩したりすることがよくありました。何事にも真面目に一生懸命なことはとても良いことだと思えます。しかし、頑張り過ぎないということも覚えておいたほうが良いのではと思います。

4月からは社会人となり、学生時代とはまた違った生活が始まります。会社や社会の中で自分で考えて決断し、行動しなければならぬこともたくさんあります。失敗したてに悩んだりしながらも、自分を見失うことなくこれからの人生を歩んでいってほしいと思います。そして、素敵な出会いがたくさんあることを願っています。

卒業するあなたがへ

卒業おめでとうございます。三豊工業高等学校に入学してもうすぐ3年が過ぎようとしています。新しい制服に身を包み、ドキドキ、ワクワクし



体育祭



持久歩大会



修学旅行



三豊正祭



進路状況について

進路指導主事 野口 正

3年生ならびに保護者の皆様におかれましては、ご卒業おめでとうございます。

今年度の卒業生進路状況は、就職84名(県内73、県外11)、進学18名(4年生大学7、専門学校等11)でした。求人数は昨年同様多くありました。12月に行った3年生への就職先の満足度調査でも昨年同様「満足している」という回答が80%を超えていました。第1希望の事業所に就職できたものが多かった結果ではないでしょうか。

昨年12月末に本校で校舎見学会があり、50名を超える卒業生が来られました。この日のために東京から帰省して参加されたという十年前に卒業された方は、新橋駅の近くの職場で日々忙しく働かれているそうです。高校時代にメカトロ部で活動していたことなどの話を懐かしそうにしてくださいました。また、大学卒業後、大手電機メーカーで設計の仕事をしているという卒業生の方も来られていました。どの卒業生の方たちも本校で過ごした日々を懐かしく思い、高校時代の生活が社会に出てからの活躍の基礎となっていると感じました。

さて、55年続いた三豊工業高校が4月より、観音寺総合高校として新たな出発をします。今年度卒業する人たちは、今後進路で相談することがあれば、観音寺総合高校にきていたかなければなりません。就職や進学をした後、慣れるまでは不安なことがいっぱいだと思います。しかし、自分一人でも思い悩むより、周りに相談することで解決できることが多いということを覚えておいてください。

2015年12月に長時間過密労働が原因で広告大手の電通の社員が自殺しました。報道等で大きく採り上げられているのでご存知の方も多いと思います。この事件以後、残業時間を年間720時間(月平均60時間)に抑えようという議論が出てきています。

日本は、高度経済成長期に欧米から「働きざかり」の国民と揶揄されたことがあります。しかし、その結果、世界で第3位の経済大国になったのも事実です。その根幹を支えているのも本校の卒業生です。さらに、今後その根幹を支えていくのは、これから社会に出る皆さんです。

21世紀を生きる皆さんは、生活の質を重視するようになり、24時間の3分の1を労働時間に使い、後は余暇や睡眠といった時間にするのが普通の時代になると思います。それが人間

らしい生活ではないでしょうか。労働関係論を専門とする熊沢誠氏は著書『能力主義と企業社会』(岩波新書)で「働き続けてゆける職場」に必要なものとして「ゆとり」「なにか」「自己決定権」の3要素を提起しています。「ゆとり」とは、たとえば、勤務中にも一息つけてなにかと話ができる程の労働密度であること、個性的な余暇生活が享受できる程の労働時間であること、心身の疲労が重ならないこと、もつと端的には、高齢者や女性、病弱者や障がい者などもなじみの場で働いていけることである。「なにか」とはなにか仕事の中でおたがいに助け合う労働環境の改善には協力しあう。ある人の健康上、性格上の事情による仕事の不備を管理者の追及からかばい、その「事情」を事由とするその人への冷遇には一緒に抗議してくれる——そんな同僚たちがたしかに実在する」といいます。決定権という概念は、作業集団または労働者個人が仕事のペース、手順、方法、そして職種によっては仕事の具体的内容に関して、企業の財務管理の枠内ではある、一定の決定権を享受できることである。」と述べています。

最後、三豊工業高校第53期卒業生の皆さんが社会で活躍されることを願っています。

2年生の頃は気が付きませんでした。3年生という肩書きがこんなにも重いものだということがわかりました。試合の結果は2人とも入賞することができ、ひとまず安心しました。もちろん、本番は全国大会だということをお忘れはいけません。

こうして迎えた全国大会では、私たち三豊工業チームは二連覇・上位独占を目標に挑みました。

試合当日、私は迷いに迷っていましたが、なぜかという、初戦の相手が昨年度準優勝の強豪校だったからです。その学校はセンサーを使用しており、人間では反応できないような動きにまで対応してくるので、試合が始まる瞬間まで作戦の見直しやパターンなどを考えていました。結果、自分で立てた作戦が功を奏し、2本とも自分の思い

中国・四国地区高等学校PTA連合大会 香川大会に参加して

PTA副会長 近藤 貴代

平成28年7月15日(金)、高松のレクサムホールにおいて第58回中国・四国地区高等学校PTA連合大会香川大会が開催され、出席させていただきました。

大会会場が高松駅の近くというところで琴電で行ったのですが、着いた駅からピンクのTシャツを身にまとった大会のスタッフが参加者の皆さんを案内していました。スタッフの皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。

今回の大会で私が一番に残ったのは、宮本亜門さんの「違うから面白い、違わないから素晴らしい」と題する講演です。さすがに有名演出家、おもしろおかしく、それでいて分かりやすいお話に思わず聞き入っていました。

亜門さんは、幼少期に自分はみんなと違うと思って生きてきたと語られていましたが、私は亜門さんが恵まれた環境で育ってこられたのだと思いました。

歌劇団のレベニューガールでした。歌劇団を退団後亜門さんのお父さんと一緒に東京の新橋演舞場の前で喫茶店を開店します。それでもお母さんは舞台への思いが強く、亜門さんもお母さんと一緒に幼少期から演舞場の舞台裏によく通っていたそうです。こういう環境に育ったからこそ、舞台演出家宮本亜門が誕生したのだと思います。もちろん、成功されるまでには大変な苦労や努力があったことは言うまでもありません。

私の人生は成功しているのか、これで良かったのか分かりませんが、子どもたちには心広く、成長の道を開いてあげ、応援してあげようと思いました。また、努力が必要ですが自分の意志を

全国高等学校PTA連合大会千葉大会に参加して

PTA会長 松原 三千代

平成28年8月24日・25日の2日間、第66回全国高等学校PTA連合大会千葉大会が幕張メッセにて開催され、全国から1万人を超える保護者・学校関係者の皆さんが集まりました。

人と人とのふれあい、かわりあい、つながりの大切さを再発見し、子どもたちを支えている学校・家庭・地域社会とのつながりとしての「愛の絆」を確かなものにするために私たちができることは何かを全国に発信

しつかり持ち続けることが大事だということも伝えてあげたいです。

もう一つ大会で印象に残ったのは、高校生による様々なパフォーマンスでした。

まず、琴平高校生のリズムなぞなです。私はこれまででなぞなを見たことが無かったのですが、曲に合わせてなぞなを巧みに操っていて素晴らしい演技でした。

次に、坂出第一高校生の料理パフォーマンス。食物科の生徒の腕の見せ所です。高校生とは思えないほど上手に素早く鯛をさばっていました。たいしたもの、プロ顔負けです。

最後は、高松商業高校生の書道パフォーマンスです。私は以前他校をモデルにしたものを映画では見たことがあったのですが、生で見るとは初めてでした。大変迫力がありました。全員の協力が大事なのですね。見事な出来映えでした。

これからもいろいろな活動を引き継いで欲しいと思います。

ておられたのが、高校生を元気にするのは家庭の中からということ。まずは基本的な生活習慣の徹底、小・中から言われ続けてきた「早寝、早起き、朝ごはん」がやはり大切、そして「褒めて、叱って育てる」ことも大事であるとおっしゃっていました。

また、物事を決められない、ディスカッションができない子どもたちが増えているそうです。家庭やPTAで囲みながらの場をつくり絆を深めていくことがますます必要になっていきます。話し合いのうずきながら意見を言い合えるチャンスを増やして、自分の立ち位置をしっかり考えさせてやってほしいと話しておられました。

分科会では進路指導とPTAについて事例発表と研究協議がありました。社会に求められる人材は積極性やコミュニケーション能力が重視されます。「なぞなぞ」「こうしたい」「こうなりたい」「どうすればいい」という思いを芽生えさせ、「自ラ力」を高めることは、コミュニケーション能力をはじめとする様々なスキルアップへと繋がります。自ラ力を成長させ

様々な高校でのPTA活動の内容や実態を知る良い機会になりました。ありがとうございました。

平成28年度PTA事業

4/21 会計監査
5/14 第一回PTA理事会
6/24 PTA総会・学級懇談会
7/19 第二回PTA理事会
8/21 PTAだより第82号
9/16 学級懇談会
9/30 「親と教師の語りあう旅」(17名参加)
9/30 第三回PTA理事会
10/9 持久歩大会支援
10/22 三豊工業祭(非公開放)
10/23 サイエンスフェスタ
10/23 三豊工業祭(一般公開)
11/19 三豊工業祭(一般公開)
12/19 学校保健委員会
12/19 第四回PTA理事会
12/19 第53回卒業証書授与式
PTAだより第83号発行

三豊工業高校として最後の年に、高校生ロボット相撲全国大会で1位、2位を独占できたことを大変嬉しく思っています。

このような結果が残せたのも、先生方のご指導があり、同じ部の仲間たちと共に頑張ってきたおかげだと感謝しています。

高校生ロボット相撲全国大会とは、その名の通り高校生だけが出場できる大会です。高校生だけと聞くと勝ちやすいと思われ

るかもしれませんが、センサ

1を積んだマシンやブレッドが3枚に展開するマシンなど個性豊かな特徴があり、非常にレベルの高い大会なのです。

私は去年、その大会に先輩の補助員として参加させていた

きました。

間近で優勝の瞬間を見

させていた

だき、大変感動しました。私も先輩と同じように優勝をしたい

と思います、今年高校生大会に出場しました。しかし、優勝をした

い、勝たなければならぬという

う気持ちが必要なプレッシャー

となつてのしかかつてきまし

た。

地区大会は何が何でも全国枠

を勝ち取らなければならぬまし

でした。上位のロボット3台ま

での高校が全国大会に出場でき

るのですが、高校生大会に登録

できるのは各校2台までと決ま

っているの、上位3台のうち

2台を勝ち取らなければならぬ

ませんでした。いつもは楽に勝

てるはずの相手もプレッシャー

の影響で苦戦してしまいました。

メカトロ部 横山 颯(M3)

三豊工業高校として最後の年に、高校生ロボット相撲全国大会で1位、2位を独占できたことを大変嬉しく思っています。